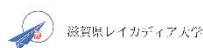


2024.09.09

課題学習発表会

(彦根商工会議所にて)

2年生後期 基礎講座の「課題学習発表会」が9月9日(計画書では8月29日でしたが、台風10号の影響により延期された)に開催され、最後の履修講座となりました。



The report of the 44th class

課題学習報告書

第44期 彦根キャンパス卒業生



第44期 園芸学科



7人の剪定師



ベジ友



樹木をたずねて



らんまん

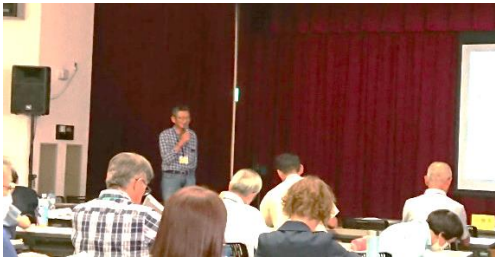


里山の会

課題の実施目的

レイカディア大学では、学生が地域の「担い手」として登場できるよう支援することを設立の目的と位置付けられて、そのプログラムの一つとして、グループ調査・研究を行うことを通し、地域課題の抽出や仲間づくり・まちづくりの取り組み方法を身につけるため、課題学習をおこなうものです。基礎講座・選択講座の一つとして位置づけられ全学生が取り組むものです。今日はその発表会となりました。

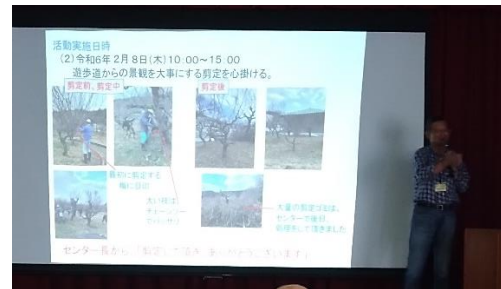
・赤塚さん進行のもとスタート



・タイムキーパーの方



1. 『学んだ技術を活かし、いざ実践!』



学んだ技術を活かし、いざ実践!

～手付かずの樹々を調べ、協同で剪定実施～

第4期園芸学科 「7人の剪定師」



【メンバー】

赤塚吉博（リーダー） 北村初夫（サブリーダー） 辻 隆（書記：主）
西澤桂一（書記：副） 池田憲一（会計） 瀧 信行（写真：主） 西澤則彦（写真：副）

1. はじめに

私たち7名のメンバーは、選択科目の中で「剪定」を座学で樹々の種類から切り戻し、切り返しを学び、実習で各種施設において、これらを実践してきました。そんな中、日々回りを見ると剪定されず伸び放題の樹々を公共施設等で見受けられました。学校で学ぶだけでなく、これらの施設に役立つ事、剪定を通じてしてみたいと思えました。

更には、松や杉などの一般的によく知られている樹木は分かるが、自分の身の周りにある樹木について、見たことはあるが、名前は知らない事が多く、合わせて調べて覚えたいと感じました。

7. 今後の活動と課題

今回、課題学習として5箇所の剪定に携わり、協同で作業する大切さ、切る前に考える思考力、数多くの樹々の習得等、学ばせて頂いた事は大きく今後も何らかの形で剪定作業に携わっていきたいと感じると共に、周りを見渡すと手入れされていない公共施設、神社仏閣が多いことに気づく事が出来ました。

一人では出来ないが今回のようなボランティアグループ、自治会、行政等が丸となって手入れをしていかないと大事な自然、樹々が守られて行かない事を痛感した次第である。

継続こそが力なり、自分も参加して大切な自然を学ぼう!!



剪定作業にご協力頂いた方々に、御礼を申し上げますと共に各地の発展を祈念します。

2. 『野菜作りは友達づくり』



野菜作りは友達づくり

～学びを生かして「新兵衛さん」の畑を守り隊たい～

第44期 園芸学科 グループ名 ベジ友



グループメンバー 6名 =正面玄関前にて=

藤田亮助 井戸敏幸 北沢重夫 多川千代子 吉田絵美 田中敦子

<かじやの里の新兵衛さん>

東近江市社会福祉協議会 小規模多機能型居宅介護事業所「かじやの里の新兵衛さん」は、代々庄屋を務めた一族の古民家・田附新兵衛さん宅を、社会福祉協議会が購入して改装。2006年から当事業所として活用されている。

建屋に隣接して畑があり、私達は、そこで今回活動させてもらいました。

5. 活動を振り返って

- 授業・実習で学んだ野菜作りの知見を基に、グループ員個々の経験も加味し、課題学習に取り組みました。野菜作り＝土作りと言われるように、米原の実習畑やグループ員個々の畑とは違った未経験の畑で、悪戦苦闘もありましたが、施設の方に喜んでもらえる野菜ができたことに満足しています。
- 限られた畑スペースでしたが、いろいろな野菜を植えることで、グループ員によっては未経験の野菜も、経験者からの知見を学ぶことができ、今後に生かすことができていると思っています。
- 雹（ひょう）の襲来という思わぬ自然災害に遭いました。誰もが初めてで、農業は自然との戦いであることを改めて体験しました。普段から何気なく食している野菜や果物。農家さんのご苦労に思いをはせる機会になりました。
- 冬季でもあり、病気や害虫の被害は少なく、農薬は使わずに済みました。雹（ひょう）の被害を受けても育つ植物の、再生能力に感動を覚えました。<立派とか、大盛に>とはいきませんでしたが、それなりに収穫できたことは幸いでした。
- 野菜を育てることを一緒に楽しみ、収穫時の喜びも共有できました。
- 作業後のお茶会・食事会で、皆が意見を話し合い、授業とは違った連帯意識が生まれ、親睦を深めることができました。
- グループのチームワークは良く、設定した目標に向かって、役割を果たし、協力して計画・実践できたことは、達成感につながると思います。
- 6月時点、まだ畑で栽培している野菜に関しては、引き続き成長を見守りつつ、収穫まで行っていきたいと思います。
- 通所者さんとの交流では、ご自身の体験談を楽しく話しておられ、共通の話題でお話することができました。こうした私達の畑作業の見学や交流は、通所者さんが和やかな時間を過ごしていただくことに、わずかでも貢献できたのではないかと感じることができました。
- 「かじやの里の新兵衛さん」を初めて訪問させていただいた時、綺麗に手入れされた立派な庭が最初に目に入りました。3月に「新兵衛さんを守る会」の皆さんが庭の清掃活動をされるということで、我々も参加させていただきました。年間計画を立て、継続してボランティア活動をされているということ、これで綺麗に手入れされている立派な庭が維持されていることに感銘を受けました。ボランティア活動への強い思い・継続することの重要性を改めて体験できました。

6. おわりに

「かじやの里の新兵衛さん」の施設管理者様をはじめ、スタッフの方々には、私達の活動に関して、多大なる御理解・御協力をいただきました。

また、通所者の皆様も、優しく私達の活動を見守っていただき、併せて感謝申し上げます。

3. 『樹木をたずねて』



『樹木をたずねて』

～巨木の健康診断紀行～

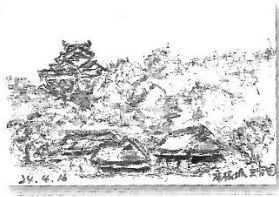
1. はじめに

私たちは、あと何回、満開の桜を見ることができでしょうか。時代が移り変わり、世の中が便利になりすぎると、いつの間にか季節感も薄れてしまいます。こんな時代だからこそ、努めて四季折々の歳時や季節感を大切にしよう心がけたいと思います。

3世紀後、5世紀後、10世紀後、遥か先の彼方、未来のこの地球上に、たくさんの樹木が育っていてくれれば素晴らしいと思いませんか。私たちの貴重な財産である樹木を未来に遺せるよう、その一助として、樹木をたずね木々の健康診断活動を始めました。

今回、選定してたずねた樹木は、書籍「滋賀の巨木めぐり」[※]に掲載されている滋賀県内の名木108本以外に、ホームページや地域性、普段 何気なく見ている県下の神社仏閣などにある樹木のなかから立派な巨木・名木を選定しました。

たずねて、気づいたことは、巨木とか名木が、茂った草木をかき分けて、道なき道を登って、山中で見つけたものは皆無で、むしろほんとうに普段我々の生活環境の直ぐ傍にあるということです。



6. あとがき

私たちが訪れた、これらの樹木の樹齢は100年という単位で、気の遠くなりそうな歳月です。今、新しい苗木を植えても、巨木・名木と言われる樹木に育つ姿を当然ではありませんが、私たちにすることはできません。

私たちの命題は、この青い地球に緑っぱいの樹木を後世に遺すことだと考えています。今回発刊されるレイカディア大学の「課題学習報告書」に訪れた樹木が記載されていますが、時が流れしだいに巨木、名木という樹木が寿命により無くなるのは仕方のないことです。しかし、何らかの理由で伐採されることが1本でも少なくなるよう、滋賀の人々に伝承していく事が大切だと強く感じています。



樹木をたずねて…メンバー

大藤利輝 関弘一 大村雅子 信田先生 (樹木医)
沖順子 山岡幸子 加藤一政 佐々生信広 黒川由江
(イラスト=佐々生信広)

【アドバイザー 信田繁治】

4. 『希少野生生物を守るために』



希少野生生物を守るために

湖東・湖北地区の希少野生生物の保全・調査活動



第44期園芸学科

チーム名: 里山の会

メンバー紹介

| | |
|--------|-------------------------|
| 富江 泰隆 | : ハリヨを求めて |
| 三國 喜代志 | : ひっそり咲くザゼンソウを守ろう |
| 松本 輝雄 | : 養魚場における沿革及び飼育状況に関する調査 |
| 安井 達男 | : 河辺いきもの森の保全活動について |
| 小野崎 成人 | : バイオマの環境について |
| 加納 藤太郎 | : 学習テーマの検討・活動記録・編集 |

7. まとめ (終わりに)

私達の住む滋賀県の自然の最大の特徴は、400 万年の歴史を有する世界有数の古代湖「琵琶湖」を有し、県全域に10,000 種を超える生きものが記録され、まさに生物多様性の宝庫です。

しかしながら、今回の活動をおして開発等による生物の生息・生育環境への影響、自然と人の関係希薄化による二次自然の荒廃、外来種や異種の侵入等により、滋賀県独自の生物多様性に危機が迫っていることを痛感したところである。

生物の絶滅はもとも希少な種だけに起こるわけではなく、気がついた時には手遅れになることもある。

1. 生物存続に対する危機には様々な要因があるが、その主な要因には以下のようなものがあげられる。

- (1) 生息地の破壊と変化: 森林伐採、湿地の埋め立て、農地や都市の拡大により、生物の生息地が破壊されている。
 - (2) 気候変動: 生物の生息地や環境が変化し生物種の分布に影響を与えている。
 - (3) 外来種等の侵入: 人為的に移入された外来種や不適切な放流により、生態系に影響を与え生物多様性を脅かしている。
 - (4) 汚染: 水質汚染、大気汚染、土壌汚染などが生物の生息地に影響を与えている。
 - (5) 過度な開発: 道路建設、ダム建設などにより生物の生息地が破壊されている。
- これらの要因が相互に作用し合い生物多様性の減少や生態系の破壊を引き起こしていることが、今回の活動をおして学ぶことができた。

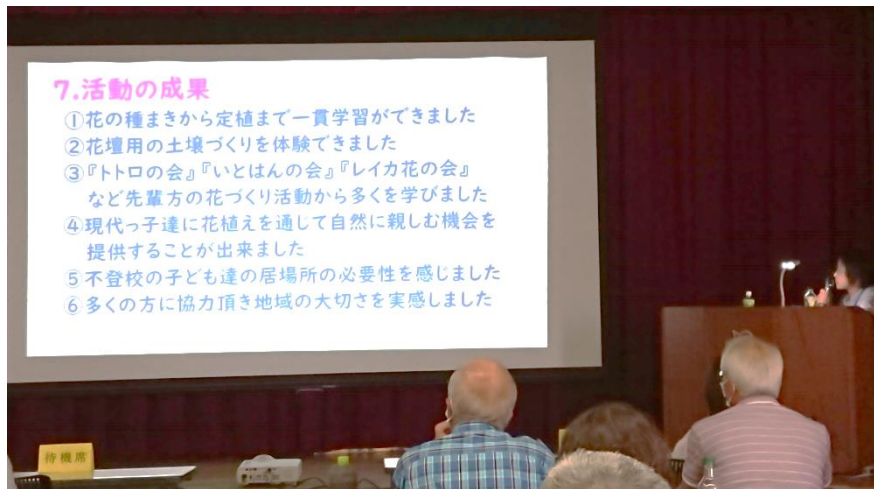
2. こうした希少な生きものの危機に対処するために、私たちができることは以下のようなものがある。

- (1) 持続可能な生活: 持続可能な消費やリサイクルを促進し、環境にやさしい選択をすることで、生物多様性への負荷を軽減する。
- (2) 自然環境の保護: 自然保護区や保護地域への参加、地元の保護活動・ボランティア活動に参加することで、生息地の保全と生物多様性の維持に貢献する。
- (3) 地域コミュニティとの協力: 地域のコミュニティと連携し、持続可能な資源管理や計画策定に参画する。
- (4) 教育と意識啓発: 生物多様性の重要性やその保全についての知識を普及するための教育や啓発活動に積極的に参加する。

私たち人間もきれいな水や空気、食料など様々な生物多様性の恵みを受け取っている。今回の課題学習をおして学んだ知識や情報そして経験をそれぞれの地域社会で、また里山の会の継続した活動で生かしていきたい。

5. 『らんまん』





レイカディア大学 課題学習報告書



テーマ 《花の種まきから定植へ
そして花らんまん》

学科名 レイカディア大学 彦根キャンパス
第44期 園芸学科

グループ名 『らんまん』



メンバー

林 則子
中野 勝子
村田 正

川原崎 厚子
奥谷 有希
南部 悦子

9. 活動の成果

- (1) 花の種まきから定植まで、一貫した手順を学習できました。
途中で枯れた苗も多く、繊細な育苗の難しさを痛感しました。
- (2) 花壇用の土壌づくりを体験できました。
一からの土づくりは、結構重労働でした。
- (3) 『トトロの会』『いとはんの会』『レイカ花の会』など多くの花をこよなく愛するボランティア団体が積極的に活動されていることが分かりました。
ただ、どの会も高齢化の波に飲み込まれそうです。
- (4) 現代の子ども達も自然相手に十分楽しめる感性を持ち合わせていることを知りました。
- (5) いろいろなシチュエーションの子ども達に寄り添える居場所の必要性を感じました。
また、公的資金の助成がもっと必要であることも痛感しました。
- (6) 人間関係が希薄になったと言われていますが、活動中たくさんの方に助けて頂き、困っているときはお互い様と支え合える地域の大切さを実感しました。
☆『らんまん』も引き続き、花づくりを通じて地域社会に貢献していきます。

10. 『らんまん』に寄せて

フリースクール Since の庭には、色とりどりの花が咲いています。
らんまんチームさんが、子どもたちと共に花を植えて下さったのです。
一緒に花を植えるという作業を通して、子どもたちが得たものが2つあります。
一つ目は、子どもを育てている大人がたくさんいること。らんまんチームの皆様が子どもとごく自然に接して下さること、子どもたちも喜んでいました。
二つ目は、命を育てるためには、世話を続ける必要があること。
命を続けるために、世話の仕方も引き継いでいくことを学んでいます。
らんまんチームさんと共に楽しそうに植物を植える子ども達の笑顔は、まさに天災爛漫そのものでした。ありがとうございます。

NPO 法人 Since 麻生 知宏

レイカディア大学園芸学科「らんまん」の皆さん、西の湖自然楽校に素敵な花壇を造っていただきありがとうございます。グループの名の通り、5月の開校記念の日には花壇いっぱいの花々が咲き誇っていましたね。西の湖にやってくるたくさんの子どものみなさんと園芸学科の皆さんが一緒になって花苗を植える姿は、地域の老若男女が一緒になって活動をつくっていくという自然楽校の方向性ともぴったりと合っていてとても素敵な場面でした。また、その花壇に可愛いプレートを作っていただき、それに子どもたちが思い思いに小さな絵を貼り付けていく活動も、子どもたちが楽しんで取り組むことができ、自然楽校の楽しい活動の一つになりました。

NPO 法人 西の湖自然楽校 飯村 悟

約1年間の時間を費やして、各々グループが地域の課題に着目して調査・研究を基礎・選択講座以外の日程で学習計画を立案し、活動してきました。今日はその成果発表の日となりました。

1年生の履修講座から今日までの集大成となりました。これらの活動は、卒業しても継続してレイカディア大学生である誇りを持って、入学した意義が具現化されるよう精進して行きましょう。

身体に気を付けてお互いに頑張りましょう!!!

(T.O)